年末年始を新生活で

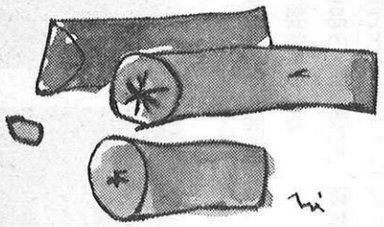
♣国旗をかかげて ゆかしい正月
♣宴会よりも 家庭でだんらん
♣横断歩道は右左見て 手をあげて
♣むだな贈答 はぶいて 貯蓄
♣きれいな郷土で 明るい新春

主唱・熊本県新生活運動協議会

随想

木炭

渡辺貞敏



今年の寒さは一ケ月も早いという。雪がちらつき木枯しが吹くようになると昔ならば、炭焼きが欣び、ひいては、われわれその衡に当るもの皆んな欣んだもの。炭の値段が上り生産量は増加し林業所得が良くなるからである、師走前後は木炭品評会或は講習会等が各所で行なわれ、これが増産奨励となり、楽しい行事であった。

木炭もここ十年余、漸次需要は減退し昨今になると家庭からは茶の湯木炭の様に古典化し、その名も、ゆかしい詩歌の材料などになって行くのではなかろうか。林産物とは木材、木炭ときまり文句であったがそのかみ木炭はは日常必需品で家庭では米麦と同様、この使用にも意を用いたものである。

日本の生活、特に建築様式に応じ木炭が採暖に或は煮炒用に養蚕用等、大和民族に貢献して来た功績は計り知れないものがある。

この糟糠の妻とも云うべき大事な木炭を今にして舶来の油嬢或はガス嬢の入駕あったとして弊履の如く家庭から棄て去るのは何としても情にしのびない。

昔の子供は黒いのは「鳥と炭」と答えたが今の都会の学童は、バーベキューに持って行く黒いものは何なの、と聞くらしい。

二千数百年連綿と続く日本の生活文化に貢献し、終りには戦争中ガス木炭として全国の自動車を動かし、或は銑鉄用に役立ち全くもって全能をつくしてお仕えしたものの近年とみに人様より省みられない様になってしまった。

我が国の木炭は炭質も世界に類例のない良質なもので民族の発展と共に進歩してくれた。

木炭は固定された炭素に過ぎない、ただこの炭化迄に要する費用が大きい。液体燃料、ガス燃料等に比し燃焼に時間差あり、カロリー差あり、価格差ありで何とも致し方なしである。

自由経済の世界交流は直ちに家庭生活の燃料革命をもたらし、木炭は漸次私共の家から姿を消し火鉢も七輪もこれから博物館行きになるのではなかろうか。

木炭の歴史は旧く、先ず世界歴史はエジプトのスフィンクスの昔から、我が国では日本武尊の草薙の剣は木炭で出来て居ると云うから二千数百年、人類と共に栄えて来ている。

併し何はともあれ木炭の価値が、有難さがその極に達したのは紀元二千六百年の頃。配給統制法が施行され、農林省には木炭第一課、木炭第二課と機構が拡充され、地方庁にも燃料係が出来て、木炭の生産配給の業務に大多忙をきわめた頃であろう。全く木炭万才の絶頂であったろう。

師走ともなり寒さにうそ震い乍ら火が恋しくなると炭火のあの赤い副射熱による柔かい暖かさが脳裡に浮ぶ。

昭和の初期、駒場の農学部で三浦博士が林学教授連を中食によび、木炭、薪、ガスで御飯を炊き、その米の味を投票し、木炭で出来た米が最良であったお話も昔語りになった。

炭火で焚いた米の飯に蒲焼き、これも紀州白炭で焼いた鰻を味う店も姿を消してしまった様だ、寂しいものである。

（わたなべさだとし・県林務部長）